第○回○○○○○○会議

募金趣意書

○○○○○○○○○○○○組織委員会

第○回○○○○○○会議

「○○○○○○」

　○○○○○○の決定をうけ、生体構成要素の網羅的な構造・機能解析をおこない、生命全体をシステムとしてとらえる統合的な生命研究の時代に○○○○○○研究も入った。その成果は医学を中心に、創薬・バイオインフォマティクスなどライフサイエンスとバイオテクノロジーの発展に、今まで以上に強く影響すると思われる。実際、DNAチップを用いたトランスクリプトーム解析や質量分析計を用いたプロテオーム解析が疾患研究に応用され、成果をだしつつある。HAPMAPプロジェクトやバイオバンクプロジェクトのような、ゲノムに基盤を置いた大規模な疾患解析プロジェクトも進行している。これらのプロジェクトが生み出す膨大な量のデータから、それが持つ「意味」を引き出すための新しいバイオインフォマティクスの進展もみられる。このような研究は、○○○○○○大きな影響を社会に及ぼしつつあり、倫理的社会的な面からの研究の考察もますます重要になってきている。結局、○○○○○○研究は、○○○○○○、より広く、より深いかたちに変化して、今まさに進行中であるといえよう。

　○○○○○○を推進してきた○○○○○○の主催による○○○○○○会議○○○○○○は今回でちょうど10回目をむかえる。この節目に当り、○○○○○○は、今まさに進行中である新しい○○○○○○研究の、最新の成果を知り、今後の研究の方向を展望する場として「○○○○○○」をテーマに20○○年○月、○○○○で開催されることとなった。○○○○○○研究は今や、生物学者・医学者に限られたものではなく、物理、化学、工学、情報学の幅広い分野に関わっており、さらには、社会学、倫理学、法学等にも関わりができている。○○○○○○は、このように幅広い分野の各国研究者からなるフォーラムとしても企画されており、国際的な交流を通じた研究の進展と、方向付けを計っている。さらに、○○○○○○研究において、企業のはたす役割は、ますます重要になっており、○○○○○○では、特に企業からの積極的な参加を期待したい。○○○○○○に幅広い分野の方がたのご参加を期待する次第である。

○○○○○○○○○○○○組織委員会

名誉組織委員長 ○○○○

組織委員長 ○○○○

組織副委員長 ○○○○

会議の概要

1. 会議の名称とテーマ
	1. 会議の名称

 　○○○○○○○○○○○○

* 1. 会議のテーマ

 　「○○○○○○○○○○○○」

1. 主催･併催機関などの名称
	1. 主催

 　○○○○○○○○○○○○組織委員会

* 1. 併催

 　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

* 1. 協力

 　独立行政法人国際観光振興機構

* 1. 協賛

 　○○○○○○○○○○○○

 　○○○○○○○○○○○○○○○○○○

 　○○○○○○

1. 開催期間

20○年○月○日（○）―○月○日（○）　（本会議○日間）

1. 開催場所

○○○○○○市（○○○○○○）

〒○○-○○○○　○○○○○○市○○○○○○

電話 ○○-○○○-○○○

ファックス ○○-○○○-○○○

1. 主催責任者

○○○○○○○○○○○○組織委員会

名誉組織委員長　○○○○（○○大学名誉教授）

組織委員長　　　○○○○（○○大学○○○○○○教授）

組織副委員長　　○○○○（○○大学○○○○○○教授）

実施責任者名（事務局長）

　　　　　　　　○○○○（○○大学○○○○○○教授）

事務局　　　　　〒○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

電話：○○○○○○　ファックス：○○○○○○

E-mail: ○○○○○

1. 日本開催の経緯

　○○○○○○は、○○○○○○プロジェクトを推進するための国際連絡機関として○○年に、○○○○○○を提唱したノーベル賞受賞者である○○○○○○らによって設立された機構であり、各国における○○○○○○プロジェクトの立ち上げ、○○○○○○研究の国際的枠組みの形成に尽力した。名誉組織委員長の○○○○は設立当初からの会員であり、日本における○○○○○○プロジェクトの推進に中心的な役割をはたした。組織委員長の○○○○は1996年から○○○○○○の評議員であり、20○○年からは○○○○○○の会長をつとめている。

　○○○○○○は、この○○○○○○が主催する○○○○○○研究の国際会議であり、研究発表を通じて、○○○○○○研究の最新の成果を広く知らせるだけでなく、○○○○○○研究者間の交流を図り、研究の推進と、方向付けをおこなってきた。○○○年よりほぼ毎年行なわれているが、20○○年は10回目に当たり、特に、○○○○○○の評議委員会から日本での開催を依頼されたものである。

　なお、この会議の開催状況は、以下のとおりです。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 開催年 | 開催地 | 参加国数 | 参加者数 | 日本人参加者 |
| 20○○年（第6回） | バンクーバー（カナダ） | 37 | 850 | 70 |
| 20○○年（第7回） | エジンバラ（スコットランド） | 40 | 1,000 | 60 |
| 20○○年（第8回） | 上海（中国） | 40 | 1,050 | 100 |
| 20○○年（第9回） | カンクン（メキシコ） | 35 | 600※ | 100 |

1. 日本開催の目的と意義

　○○○○○○研究は、国際的協力のもとに産学が大規模に参入し、この間の著しい解析技術の進歩に支えられて、○○○○○○国際プロジェクトは20○○年に所期の目標を達成するに到りました。

　この間、特に欧米では医療、創薬、食品、農業などのライフサイエンス関連の産業分野での○○○○○○研究の成果に基づく最先端技術を基盤とした多数のベンチャー企業が誕生し、新規事業の開発に活況を呈しており、今後○○○○○○研究の産業界に及ぼす影響は益々大きくなるものと思われます。

　このような環境の中、わが国で○○○○○○を開催することは、ライフサイエンス産業界が○○○○○○研究の成果に基づく高度技術を積極的に導入することによって活性化するための一助となるものと思われます。

　本会議の目的は、学術・産学各分野の最先端で研究開発に携わっている研究者を国際的な規模で一堂に集め、学術研究や技術開発に関し発表、討論し、意見や情報を交換することにより研究者相互の、あるいは企業間の交流を深め、結果として技術交流の端緒となる場を提供すると共に幅広い分野からの研究者を招聘することにより、多岐にわたる関連分野の現状を網羅的に俯瞰することです。○○○○○○研究者による国際的組織である○○○○○○の年次会合として国際的に権威のある本会議を日本で開催することは、日本における○○○○○○研究の一層の活性化を図り、また、同分野における日本の研究成果を広く世界にアピールすることにつながると思料されます。

1. 開催計画の概要
	1. 会議日程

○月○日（月） 夕方 開会式

 プレナリーセッション1

 ウェルカムパーティー

○月○日（火） 午前 プレナリーセッション2

 シンポジウム1

 シンポジウム2

 午後 ポスター・展示

 ワークショップ1～5（ポスターより選択）

○月○日（水） 午前 プレナリーセッション3

 シンポジウム3

 シンポジウム4

 午後 ポスター・展示

 ワークショップ6～10

 夜 カンファレンスディナー

○月○日（木） 午前 シンポジウム5

 シンポジウム6

 午後 ポスター・展示

 ワークショップ11～15

 プレナリーセッション4

* 1. 主要トピックス

プレナリーセッションテーマ

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

シンポジウムテーマ

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○

* 1. 参加予定者

国内 700名

海外 300名

合計 　　 1,000名

* 1. 参加予定国　25ヶ国・地域

日本、アメリカ、台湾、インド、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、デンマーク、フランス、アイルランド、スウェーデン、イギリス、ドイツ、韓国、カナダ、イタリア、スペイン、メキシコ、パキスタン、フィンランド、ノルウェー、ロシア、中国、ブラジル

* 1. 会議使用言語

英語

1. 寄附金を必要とする理由

　○○○○○○はわが国の○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○分野の活性化に大きく寄与するものであります。○○○○○○は海外300名、国内700名、計1,000名の参加が予定され、準備運営等に関する総経費は○○○○○○円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建て前でありますが、登録料を低額に抑えたいとの事由により総額○○○○○○円から、参加費等自己負担額○○○○○○円、補助金等○○○○○○円、展示会・企業セミナー費○○○○○○円を除く不足額、40,000,000円を諸企業及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、下記の費用を会議に協賛する関係企業等からの寄附金にて充当したいと存じます。

1. 収支予算（案）

単位：千円

|  |  |
| --- | --- |
| 収支区分 | 金　額 |
| （収　入）1. 自己負担金（参加登録費等）
2. 諸収入等（展示会等）
3. 補助金／助成金等
4. 寄附金等
 | ○○○○○○○○○○○○40,000 |
| 収入合計 | ○○○○ |
| （支　出）1. 会議準備費
2. 会議運営費
3. 展示会・企業セミナー等
4. 募金経費
5. 事後処理費
 | ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ |
| 支出合計 | ○○○○ |

申請の場合、募金開始日は当機構が通知を発信した日となりますので、申請中は空白としてください。

1. 寄附金募集要項
2. 募金の名称

第○回○○○○○○会議寄附金

1. 募金の目標額

40,000,000円（総額○○○○○○円の内）

1. 募金期間

〇〇〇〇年（平成○年）○月○日～20○○年（平成○年）○月○日

（注：会議開催日前の銀行営業日まで）

1. 寄附金の使途

第○回○○○○○○会議の準備並びに運営に関する費用に充当します。

1. 寄附金申込先

独立行政法人国際観光振興機構コンベンション誘致部交付金担当

〒160-0004　東京都新宿区四谷4-4-1　四谷国際ビル4階

電話：03-6691-4852　ファックス：03-6691-8787

1. 寄附金振込方法

別紙のフローチャート通りとなります。

別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。

寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書の受領後、指定口座番号にお振込ください。

1. 税法上の扱い

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。